

R4年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 20日

事業所名 放課後等デイサービス にじの森

職員数 7人 : 回収数 7人 : 割合 100%

		チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点・改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				・事業所移転してからは、空間のに余裕ができたと思う。
	2	職員の配置数は適切である	7			・送迎関係で見守りが不十分な状況がある	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3		・階段を使ってしか入室できない	・活動スペースが2階部分である為、車いすの方等利用がある場合には、大人の介助が必要になると思う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7				・定期的に虐待や権利擁護研修を行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				・指摘受けていない項目でも、随時改善が必要だと思われることについては、職員間で話し合いの議題とし、改善に向けて考えていきたいと思う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				・法人ホームページにて公表している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7				・年に一回第三者委員の方に事業所の報告会を行い、助言を頂いている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			・ZOOM研修などオンデマンド研修を活用している	・年間満遍なくはなかったものの、研修会を開催することができた。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				・本人や保護者の希望を計画書に記入して頂き、思いや願に近づけるよう計画に反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7				・アセスメント内容を、見直ししていく必要があると考えている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7				・活動計画は、毎月定期的に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7				・職員が持ち回りで計画をしていることで、運動や工作等、静と動の活動が組み合わせることができている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7				・上記同様
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7				・上記同様
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7				・支援開始前に、前日の活動内容の反省点や利用されていた子どもさんの気になる事等、話す時間を作っている。当日の役割分担なども打ち合わせする事ができている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7				・長期休暇時の時間確保は課題である。ケース記録の時間で、職員間ではしっかり伝え合い、記録として残している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				・上記同様
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				・令和3年度から続く、前、後期の中間モニタリングは、書類上ではありますが、率直な意見も知ることができ、とても支援に役立っていると思う。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			・担当制を設けている為、より細かく子どもさんの様子を把握することができている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		・学校によって共有が難しく感じるケースもある。(送迎時に職員が付き添うことができない状況を含む)	・児童発達支援管理責任者が、時間割や年間行事予定等確認を行うようにしている。日々の送迎に関しては、毎回一日が始まる前に全体で確認している為、抜けがないようにしている。万が一送迎中のトラブルが発生した場合には、送迎職員が携帯電話を所持している為、事業所に連絡を取ることで、行き違いなどが起こらないよう、情報を一か所に集め判断するようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7			・保護者を通じて、連絡を取ってもらっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			・必要に応じて、連絡を取り情報共有をするようにしている。(保護者に必ず確認を取ってから行うようにしている)
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			・その用意はできている為、移行する際には情報提供をしたと思う。また、要請がある時も応じられている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			・連絡をとれる関係は築いている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		・公園で地域の子どもさんとやり取りする場面があった。	・児童クラブ主催のクリスマス会に、数名であったが、参加することができた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		・担当の職員が参加している	・担当職員が参加している。情報も報告してもらい、全職員が把握することができている。また、地域の中で役立つ防災に取り組み、送迎中に避難できる場所の地図作成を行い、訓練に役立させている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・気になったことは送迎時に直接伝えたり、連絡帳、電話などを使った伝えることができている	・連絡帳や送迎中、また電話も活用し連携をとるように心がけている。また、
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		・ペアレントトレーニングスキルの向上を図っていききたい。	・ペアレントトレーニングを改めて行うことはしていない。面談時、しっかり子どもさんの状況を説明しながら、現状の問題に目を向けより良い支援方法を共に考えている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			・契約時に、時間をかけて行っているが、防災の部分や苦情についての説明不足を感じている。今後、機会を作っていく必要があると考えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		・連絡帳や直接送迎時に、悩みを相談されることもある。	・随時、ご相談に対応しているが、直接事業所に言えないこともあろうで、相談事業所の力も借りて問題解決している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		・保護者も一緒に参加できる行事を、今年度も計画できた ・父母の会はない。	・保護者会は設置していないので、子どもを交えてのレクリエーション会等の開催を、事業所としては行っていく上で、保護者同士の交流の場を増やしていきたいと考える。また、保護者間での交流の場等必要であれば、ご家族にご意見を聞きながら進めていきたいと思う。来年度は、保護者間の交流を実現していく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			・苦情やクレームがなかったが、日頃の疑問や職員の言動や対応が気になる事等、相談員を介して耳にすることがあった。改善に努め、職員会議で挨拶の仕方や話し方について、確認し合った。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			・毎月通信の発行を、職員持ち回りで担当している。訓練関係の発信の回数を増やして行くことが課題である。
	35	個人情報に十分注意している	7			・情報が流出する事のないよう、しっかり情報管理をしていくことを、職員会議でも話している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			・人権擁護の観点から、しっかり子ども達に向き合う努力を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		・積極的に地域との関わりを持っていない	・コロナの状況の中、できていない。来年度こそは、地域との交流ができる方法を模索していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			施設全体では、防災への取り組み方を見直していくことができた。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			・2ヶ月に一回、定期的に訓練できている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			・毎年県の主催する虐待防止研修の参加はできなかったが、虐待に関する研修は、取り組めた。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			・個別支援計画書にて説明を行っている。また、委員会設置に向け動くことができた。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			・アレルギーの有無の確認は、児童表にて確認を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			・引き続き、件数を増やす事で、日々の職員意識の向上に努めていきたいと考える。